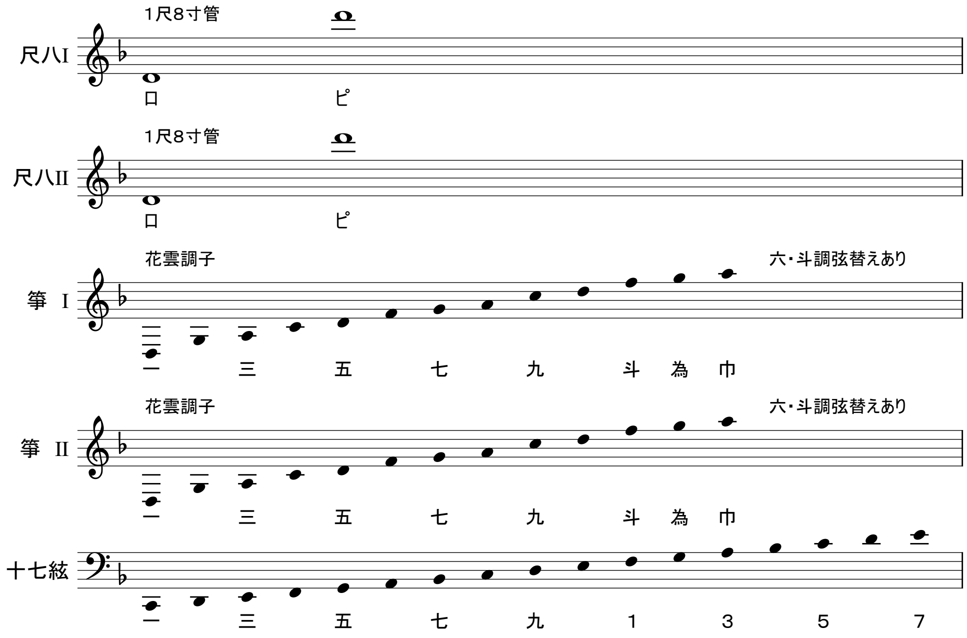
組曲「都筑風土記」１

古民家の春

こみんか　はる

加羅古呂庵 一泉

2020.5.15 作曲



運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。

横浜市都筑区は、1994（平成 6）年 11 月 6 日にできました。港北ニュータウンを中心に水と緑の豊かなまちづくりが行われ、公園や自然そのままの里山が遊歩道で結ばれています。その区画整理の際に、多くの遺跡が発掘されました。新しいまちのイメージですが、石器時代、縄文時代、弥生時代から現代にいたるまで、多くの人々が暮らしてきた歴史ある土地です。都筑という名前は、今日では知名度が高いとはいえませんが、古代から「都筑郡」が置かれ、『平家物語』にもその名が現れます。

こうした自然が豊かで歴史のある都筑区の風景をテーマとして、「古民家の春」「大塚・歳勝土の夏」「月出松の秋」「山田富士の冬」「都筑の風」の 5 曲を作曲しました。いわば「都筑風土記」として、組曲のように 5 曲通して演奏してもいいですし、演奏する機会・場所に応じて、1 ～ 2 曲ランダムに演奏してもいいでしょう。各曲は約 5 分で、幕間が長くならないよう、あまり調弦を変えなくてもいいようにしました。

古民家の春

横浜市営地下鉄ブルーラインの仲町台駅から数分のところに「せせらぎ公園」があります。遊歩道の脇のせせらぎが流れ込む池があり、そのほとりに古民家がたたずんでいます。

この古民家は、「旧内野家住宅」と呼ばれ、もともとは都筑区に隣接する青葉区茌田町の柚木谷にあった家屋を、移築・復元したものだそうです。左側に土間があり、右側に座敷があります。囲炉裏があり、農機具も残されています。江戸時代の農村の住まいと暮らしを彷彿とさせてくれます。

古民家と池の間にはさまざまな花が咲き乱れ、春の盛りを伝えてくれます。池の対岸には桜が満開となり、やがて春から夏にかけては、水面に睡蓮が白い花を咲かせます。

のどかな春の風景です。